

# 大宰府条坊跡第289次調査

平成 23 年 10 月 15 日  
大宰府市教育委員会文化財課調査係

## 調査の概要

所在地 太宰府市都府楼南 3 丁目 23 番地内  
調査期間 平成 23 年 8 月中旬～  
平成 24 年 1 月上旬 (予定)  
遺跡の内容 奈良時代の条坊跡

## 調査で見つかった主な遺構・遺物

遺構…奈良時代の掘立柱建物、井戸、坊路（道路側溝）、廃棄土坑(ごみ捨て穴)など  
遺物…須恵器、土師器、瓦など

## 調査の成果

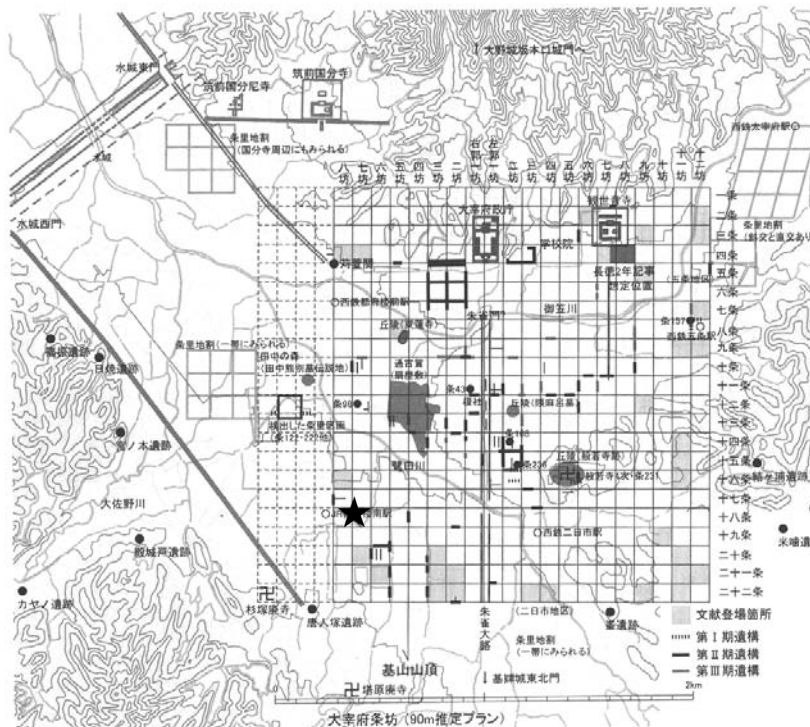
### ○推定右郭7坊路

調査区の東端で、南北方向に延びる複数の溝を確認しています。これらの溝は、坊路（南北方向の道路）の側溝と考えられ、大宰府条坊の中央の南北道路（朱雀大路）から西に7つめの道路だと推定しています。（※条坊の一区画を

90m×90m と考える案の場合。）



なお、調査地の南側の線路を越えた先にある田んぼの区画は、この道路の延長線と一致するようです。条坊区画の名残を現在の土地区画で見ることができる貴重な例です。



だざいふじょうぼうあと  
**大宰府条坊跡とは？**  
奈良時代～平安時代（今から 1000～1300 年前頃）、大宰府という地方最大の役所が置かれていました。当時の大宰府政庁の南側には、南北方向に走る坊路と東西方向に走る条路によって碁盤目状に区画整備された都市がつけられていたと考えられ、この都市区画を大宰府条坊と呼んでいます。  
★が今回の発掘調査現場の位置

ほったてばしらたてもの  
○掘立柱建物

坊路の西側で7棟の掘立柱建物が確認できています。建物の規模は、2間×2間のものが1棟、2間×3間のものが4棟です。

建物はどれも南北または東西に棟を合わせています。条坊の区画に沿って建物が建てられていたようすが分かります。



○井戸

調査区の中央では、奈良時代後半頃に埋没したと考えられる井戸が見つかっています。直径約3mの掘り方の内側に、方形の井戸枠をつくっています。井戸枠内には、井戸の枠に使われ

ていた板状・棒状に加工された木材が遺っていました。



調査のまとめ

今回の発掘調査では、奈良時代の坊路跡と、掘立柱建物や井戸といった生活の跡が確認され、大宰府条坊という都市のあるひと区画での生活空間のようすを知ることができています。周辺の発掘調査の成果と合わせて、条坊区画内の建物の配置など土地利用の状況を解明する良い手がかりとなりそうです。

